

夢・希望・未来、新しい学校生活がスタート

新学期、新しい学習環境のもと、各学校では未来に夢と希望を抱いた新入生を迎え、入学式が行われました。

今年度から生徒の多様化、個性化の進行に対応して、府立洛東高校では京都市内初の普通科総合選択制が、府立南丹高校では単位制の特徴を生かした総合学科が導入されました。

さらに、6年間の一貫教育を通して一人一人の豊かな個性の伸長を目指す府立洛北高校附属中学校も開校しました。

また、京北町立京北第一小学校では移転に伴う全面改築により、地元産木材を使用した木の香る新校舎で新しい学校生活がスタートしました。



府立南丹高校



府立洛東高校



京北町立京北第一小学校



府立洛北高校附属中学校

明日の教育を担う

—平成16年度、新たに280名の教職員を採用—

京都府教育委員会は、平成16年4月1日に平成16年度新規採用教職員の辞令交付式を行いました。

式では、国歌斉唱に引き続き、武田教育長から辞令交付がなされ、続いて藤田委員長から「公教育を推進するにあたり、使命と責任を自覚し、誇りを持って職務に精励していただきたい」と激励の言葉がありました。

これに対し、府立八幡高校の山本健司教諭が「常に資質向上に努め、より良い教育の在り方を求めて邁進したい」と新規採用教職員を代表してあいさつし、新規採用教職員は、その使命の尊さと責任の重さについて自覚を新たにするとともに、府民の期待と信託に応えるべく、京都府公立学校教職員の一員としての強い決意を胸に、児童生徒が待つそれぞれの赴任校へと向かっていきました。

また、同日、京都府総合教育センターではこれから1年間にわたって実施する初任者研修の開講式が行われ、この研修を通して、新規採用教員が、実践的指導力を身に付け、幅広い知識や経験を得ることによって、一日も早く一人前の教員として児童生徒の指導に当たることが期待されています。

○採用者数（京都市立学校を除く）

小 学 校	175名
中 学 校	56名
高 等 学 校	31名
盲聾養護学校	18名
計	280名



学力の向上と豊かな心の育成 家庭・地域の教育力の向上を ～平成16年度「指導の重点」～

京都府教育委員会では、各学校（園）や社会教育関係機関の教育活動の指針とするため、本年度の取組の努力点等を示した「指導の重点」を策定しました。

学校教育指導の重点

- 基礎・基本の徹底による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進
 - ◇学力診断テストなどを活用した指導の充実
- 豊かな人間性をはぐくむ教育の充実
 - ◇不登校の解決に向けた総合的な取組、など

社会教育指導の重点

- 府民が生涯にわたって学び続けることのできる学習環境の充実
- 生命を大切に作る心、思いやりの心などをはぐくむ家庭・地域の教育力の向上
 - ◇発達段階に応じた読書活動の家庭、学校、地域社会を通じた社会全体での推進
 - ◇生涯スポーツの推進と子どもスポーツ・競技スポーツの充実、など

詳細については、府教委のホームページでもご覧いただけます。

平成16年度 教育委員会当初予算の概要

京都府教育委員会では、府民の教育に対する大きな関心と期待に応えるため、「新京都府総合計画」や『「京の子ども、夢・未来」プラン21』、さらに「まなび教育推進プラン」や「地域と人をむすび育てるIT活用プラン」などに基づく教育改革を進めています。

非常に厳しい財政状況ではありますが、未来を担う「人づくり」を積極的に推進するための事業費を、前年度に比べ約21億円増額しました。

予算総額 1,998億9,900万円 ⑮当初比20億7,500万円（1.03%）減
（うち、事業費予算147億円、16.3%増）

●学校教育の充実

子どものための京都式少人数教育推進

[78億2,825万円]

《まなび教育推進プラン関連》

◆小学校低学年指導充実 [7億6,385万円]

学校生活を送る上で必要な生活習慣や学習習慣をしっかり身に付けさせるため、小学校1・2年生について2人の教員によるきめ細かい指導を行います。配置は30人を超える学級を基本としますが、各学校の状況に応じて弾力的に運用します。

配置教員数 720人 原則1年生は全学期、2年生は1学期

◆京の子ども・少人数教育推進 [70億6,440万円]

小学校・中学校で子どもたちに応じた指導を行うため、習熟度別・課題別に分けた少人数授業や複数の教員によるチームティーチングに加え、子どもたちの状況を把握しやすい少人数学級も選択して実施できるように教員を配置します。

配置教員数 778人

学力充実総合対策

[7,310万円]

◆京都夢・未来校 23校の指定 [980万円]

国語や算数などの基礎教科について、わかりやすい教え方や学習教材の研究・開発を行い、学校の授業や指導の充実に生かします。

◆基礎学力充実実践研究校 40校の指定 [4,000万円]

子どもたちが苦手な分野について、自ら進んで学習する力を身に付けるよう、教え方や学習教材を研究・開発し、個人指導を充実します。

◆小学校基礎学力診断テストの実施 [1,240万円]

小学校4・6年生の全児童を対象としたテストによって、子どもたちの理解度を見極め、効果的な授業・指導方法の改善を進めます。

◆中学校学力診断テストの実施 [1,090万円]

中学校2年生の全生徒を対象としたテストによって、子どもたちの理解度を見極め、効果的な授業・指導方法の改善を進めます。



情報教育推進

[2億1,917万円] 《IT活用プラン関連》

◆教育情報ポータルサイト構築検討【新規】 [300万円]

教員や子どもが電子教材をすぐに取り出して使えるよう、優れた教育情報ポータルサイトを構築するための調査研究、検討を行います。

◆IT活用高大連携推進【新規】 [160万円]

府北部の高校と府南部の大学を結んだ遠隔授業等を実施し、学習内容や進路指導を充実します。

◆eスクール推進【新規】 [1億2,440万円]

普通教室等でITを活用できる環境の整備や、またITに関する専門家を府立学校へ派遣し授業や教材作成の支援など教育の情報化を推進します。

その他の重点施策

◆全国高等学校総合文化祭開催準備 [2,500万円]

平成18年に京都府で開催される第30回全国高等学校総合文化祭の運営を円滑に行うため、運営体制・実施組織の確立及び各部門の強化など、京都大会の開催準備を行います。

◆子どもの体力向上対策 [70万円]

子どもの体力向上を目指した効果的な指導を行うための小・中・高等学校教員向けの指導資料を作成します。

きょういく

また

みなみ

「算数大好き」主体的な学びを育てる

～美山町立鶴ヶ岡小学校～

小規模校である本校では、主体的に学ぶ確かな力を育てたいと考え、算数科の実践研究を進めています。習熟の程度に応じたコース別学習、テレビ会議システムを活用した他校との合同授業等を取り入れることにより、児童は張り切って学習しています。



授業以外でも、3年生以上が一斉にコース別に取り組む「算数教室」や、全校算数オリエンテーリング「わくわくタイム」など、楽しく学ぶ活動を積極的に導入しています。

夏休みには、全児童が生活の中からグラフを作成し、京都府統計グラフコンクールに応募。府知事賞をはじめたくさんの賞を受賞しました。これらの取組を通して、「算数大好き」な児童が増えてきています。

「体験活動を生かした道徳教育」

～宮津市立上宮津小学校～

本校では、豊かな心を持ち、ふるさとの自然や文化を愛する子どもを育てたいと体験活動を生かした道徳教育を進めています。

学校茶畑での全校茶摘みや手もみ製茶、緑の少年団による学校林での森林保護や樹齢300年以上の天然杉が自生する杉山の観察など校区の自然を生かした体験活動の中で、地域の方々から知恵と技を学んでいます。

また、30年続いている養護学校との交流学习は、障害のある人と心をつなぎ、楽しく学び合う大切な機会です。

道徳の時間では、体験を重ね合わせ、道徳的価値について気付いたり、深めたりします。子どもたちは思いやりの心を大切に、生き生きと体験活動に取り組んでいます。



●心の教育の充実

心のサポート推進

[2億361万円]

中学校のスクールカウンセラー及び小学校のふれあい相談員の増員を図るとともに、新たに民間施設との連携を含めた不登校に関するネットワークの整備を図ります。

●社会教育の充実

ゆめ体験ネット推進

[3,263万円]

《まなび教育推進プラン関連》

様々な活動の情報を提供する体験活動等情報センターの設置や、障害のある子どもが参加しやすい京都らしい体験活動の機会を充実する「京のわくわく体験推進事業」を実施します。

土曜日子ども活動支援

[2,128万円]

《まなび教育推進プラン関連》

学校施設を活用した土曜日の体験活動・学習活動を充実して、地域で子どもを育てる環境を整備します。



●府民スポーツの振興

地域スポーツ活動推進【新規】

[1,800万円]

誰もが、年齢や体力、目的に応じて、いつでも主体的にスポーツに親しめる「総合型地域スポーツクラブ」を育成・支援する府の機関「広域スポーツセンター」を設置します。



未来のトップアスリート育成

[2,000万円]

小学校高学年から高校生のジュニア世代を対象に、有名選手の実技指導や講演等を通じて、スポーツの楽しさを啓発しながら競技力の向上を図ります。

国民体育大会近畿地区大会開催【新規】

[2,500万円]

国民体育大会への出場をかけた近畿ブロック大会の30競技を京都府で開催します。

※平成16年度京都府教育委員会当初予算の資料については、府教委のホームページでもご覧になれます。
(URL <http://www.kyoto-be.ne.jp/>)

●府立学校施設・設備の充実

府立学校施設整備

[23億200万円]

子どもたちが活動する校舎や体育施設などについて、計画的な改修や耐震補強、普通教室の冷房設備など、安心・安全かつ快適な教育環境の整備を図ります。

新設養護学校建設

[34億1,600万円]

舞鶴市に養護学校を建設し、平成17年度の開校を目指すとともに、子どもたち一人一人の障害に対応したきめ細かな教育を地域とともに進めていきます。

木の香あふれる学校環境整備【新規】

[3,900万円]

府立学校に府内産間伐材を利用した机や椅子、書架などの備品を配置し、子どもたちが地球環境保全の大切さを実感できる豊かで快適な学習環境を整備します。

不況・雇用対策

府立高校授業料減免の特例措置

厳しい雇用・経済情勢を踏まえて、経済的な事情で生活困難となった家庭の生徒の修学を保障するため、所得基準額を大幅に緩和して授業料を全額免除する特例措置を継続して実施します。

高等学校等修学資金貸与

[6億67万円]

勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な高校生などに、無利子の修学資金の貸付けを行い、教育の機会均等を図ります。

「まなび教育推進プラン」・・・学力の充実・向上を図る効果的な少人数教育の在り方と、学校週5日制に対応した地域で子どもを育てる環境づくりを目指すアクションプラン

「地域と人をむすび育てるIT活用プラン」・・・教育分野の情報化、IT活用による北部地域の活性化、先端的な研究開発の蓄積を生かしたIT先進地づくりを目指すアクションプラン



ハンセン病療養所入所者の方とのふれあい

「ハンセン病療養所入所者とのふれあい交流会」事業に夜久野町の小学生と中学生の代表20名が参加しました。

ハンセン病は、感染力が弱く完治する病気であることや、今なお偏見が残っていて故郷へ帰れない人が多くいることなどを住民の方と一緒に事前学習しました。岡山県にある療養所入所者との交流を通して、子どもたちは、病気について正しく理解することや人権を尊重することの大切さを学びました。夜久野町では、交流の様子をパネルや広報誌で紹介したり、参加した子どもたちの感想を各種行事で発表したりして、町全体に広げるよう工夫されています。

このように、学校では、子どもたちに豊かな人権感覚を育てるために、地域と一緒に取組を進めています。家庭でも身近な人権の問題について話し合ってみてください。

参加者の感想文より（抜粋）

岡山に行って、わたしは、ハンセン病元患者さんたちが受けた差別はもうしてほしくないと思いました。だからわたしは、もうとくに治っている元患者さんたちを「帰ってきて」とむかえてあげてほしいと思います。そして、みんなにハンセン病元患者さんが受けた差別のつらさをわかってほしいと思います。だからわたしは、どんな差別もしてほしくないと思います。(小学6年生)



伝統工芸の技に感動！

京の伝統工芸品教育活用推進事業（製作体験・実演）

京都府では、児童生徒に職業に対する理解と文化や伝統を尊重する心や態度の育成を図ることを目的として、京友禅や清水焼などの伝統工芸品を製作している技術者を学校や公民館等に派遣する「京の伝統工芸品教育活用推進事業」を実施しています。

子どもたちは、「製作する喜びがわかった。」「将来こういう仕事をしてみたい。」と技術者の技に感動していました。

今後も、本物にふれ、体験できる機会の充実を図り、子どもたちの豊かな心をはぐくみたいと考えています。



子どもの読書活動を推進するために

読書で はぐくむ 京の子ども夢・未来「京都府子どもの読書活動推進計画」を策定

今日の情報メディアの発達や子どもの生活環境の変化などから、子どもの「読書離れ」が憂慮されており、子どもが積極的に読書に親しみ、進んで読書を行う態度を養い、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう取組を推進することが極めて重要です。

京都府では、子どもの発達段階に応じて、家庭や学校、地域社会における読書活動の推進とその効果的な連携の下に社会全体で読書活動を高めていくことを基本方針として、広域的な観点から市町村とも連携を図りながら、子どもの読書活動の推進に向けた市町村の取組への支援や広報・啓発、情報提供に取り組みます。

○家庭における読書活動の推進

乳幼児期から身近なところで読書に親しむことができるように、家庭教育に関するさまざまな取組を通じて読書の重要性について保護者の理解の促進を図ります。

○学校等における読書活動の推進

生涯にわたる読書習慣が身に付くよう、読書に親しむ取組を進めるとともに、司書教諭の配置など、教職員の推進体制の整備や資質向上のための研修を充実します。

○地域社会における読書活動の推進

身近な読書施設である市町村立図書館等では、地域のすべての子どもの読書推進に向けたさまざまな取組が実施されており、府立図書館では情報センターとしての機能を果たすとともに、市町村立図書館等職員の研修機会の充実など、市町村における子どもの読書活動の取組を支援します。

○効果的な読書活動の推進

子どもの読書活動にかかわる関係機関・団体等との連携・協力を図るとともに、府民の理解を深めるための取組や子どもに読んでほしい本の紹介の取組を進めます。



「京都府スポーツ振興計画」の概要と施策の展開

京都府の今後10年にわたるスポーツ振興の指針となる「京都府スポーツ振興計画」を策定しました。

本計画は、府民の誰もが、それぞれの目的に応じて、日々の暮らしの中で主体的にスポーツに親しむことができるよう、あらゆる環境づくりを進めることにより、「生涯スポーツ社会」の実現を目指しています。

そのため、あらゆるスポーツを「生涯スポーツ」として包括的に位置づけ、次の3つのプランで構成しています。

1 生涯スポーツ推進プラン

府民一人一人が「豊かなスポーツライフ」を築くことによって、明るく活気に満ちた生活を実現させるため、「総合型地域スポーツクラブ」の手法を活用し、各地域における住民主体のスポーツを推進します。

2 子どもスポーツ充実プラン

心豊かでたくましい子どもをはぐくむとともに、子どもたちが、小さな頃から身体を動かすことやスポーツの楽しさを味わうことによって、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣や能力を培います。

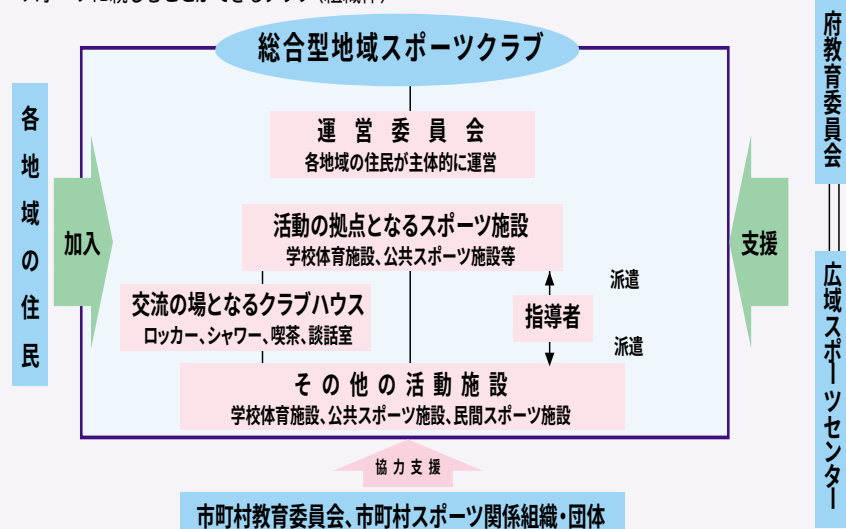
3 競技スポーツ充実プラン

わたしたちに夢や感動を与えてくれる「競技スポーツ」を充実させるため、国内レベルの競技会で常時入賞できる競技者の育成、更には国際レベルでも活躍できる競技者や指導者を育成します。



総合型地域スポーツクラブ

関係機関の連携により、だれもがそれぞれの興味・関心・目的等に応じて、各地域で主体的にスポーツに親しむことができるクラブ(組織体)



～教職員の評価制度～

平成16年度一部の学校で試行を実施

「教員の評価に関する調査研究会」から、このほど平成15年度の研究のまとめとして「第1次調査研究報告」(平成16年3月)が教育長に提出されました。

研究報告では、評価制度について教職員の資質向上及び育成、取組目標の明確化や、学校組織の活性化などを目標に、

○目標管理手法の導入[自己目標→自己評価→評価者評価]

○絶対評価の導入

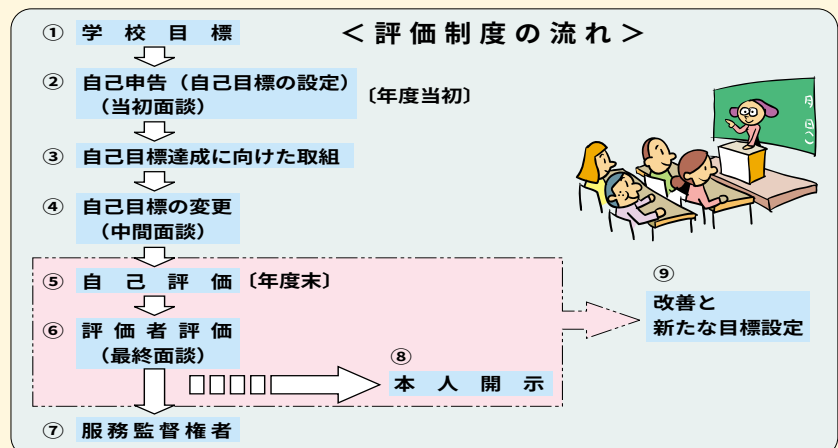
○原則としてA B Cの3段階方式

○加点方式による評価

○「能力」「実績」「意欲」を評価項目とする

○評価者を補助する者を「評価補助者」として校長が指名することを内容としています。

また、評価結果については、研修、人事配置・人事異動などに活用することとしています。今年度は、評価者を対象とした研修を実施するとともに、一部の学校での試行を経て、平成17年度には全校で試行し、平成18年度の制度導入を目指しています。



教職員評価制度は、教員の目標達成に向けた教育実践を振り返り、子どもや保護者、地域の方々の意見も取り入れながら評価することで、公立学校の教職員として求められる役割や責任を的確に教職員が自覚し、意欲的に次の目標に向けて、また努力するといったサイクルの制度です。

トータルアドバイスセンター

(電話または来所)

子どもの発達、いじめや不登校などの学校教育や、子育てやしつけなどの家庭教育に関することについて精神科医や臨床心理士などが相談を受けます。

	府総合教育センター内(伏見区)	府総合教育センター北部研修所内(綾部市)
来所教育相談	月～金〔(祝)を除く〕 10:00～17:00(電話で予約が必要です)	
電話教育相談	毎日〔(祝)を除く〕 8:30～20:30 (☎075-612-3268) (☎075-612-3301)	月～金〔(祝)を除く〕 10:00～19:00 (☎0773-43-0390)

気になる子の理解と対応「みえますか?子どものサイン?」及び「LD・ADHD・高機能自閉症等のサポートマニュアル」をHPに掲載

<http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>